

郷土摂津

いにしえ通信

第 2 3 号

平成十二年三月一日

発行

摂津市三島一丁目一番一号

摂津市教育委員会

生涯学習部 生涯学習課

明治時代の摂津市は、江戸

時代からの農村の景観をそのまま持続し、ひろびろとした田畑では、稲・綿・菜種などを栽培していました。

田畑の間をぬうように走る

古地図から見た
昔の町並み

井路は点在する村々を結び、安威川・淀川に連結していました。大正時代になってから府道旧大阪―高槻線、旧炭木―鳥飼線が出来、淀川水運の持つ意義が次第に低下して行きました。

摂津なつかし写真館

番外編

明治十八年の地図

現在の正雀駅周辺には、大きな池がありました。この頃はまだ田園風景が広がっていましたが、正雀駅ができて町並みも変わっていき

今では、住宅や工場が立ち並ぶ町並みですが、昔は一面に水田が広がっていました。当時の集落は川ぞいを中心に点々と営まれていました。

明治十八年の洪水を契機に淀川の流れを、まっすぐに変える計画がありました。財政難のため、計画が遅れ明治四十二年に現在の流れになりました。

◎摂津なつかし写真館は今月号をもちまして終了します。次号からは、昔の生活道具について紹介していきます。

投稿欄 『私にも一言』

三宅城跡を訪ねて

千里丘東四丁目

宮田 一郎

一月のふるさと講座を聴いて、三宅城跡をこの目で確かめておこうと、毎日歩く散歩道の終わりに少し足を延ばしてみた。

ずばらな性格が災いして当ずっぽうに見当をつけたのが大失敗、茨木市・撰津市の境

界線が入り組んで、迷い込んで、うろろする。三十年近く住んでいるのにこの辺りには始めてふみ込んだから、抜けるだろうか？と小路や細道をさまよって、やつと蔵垣内公園の一隅に、三宅城跡と刻みこまれた小碑と茨木市教育委員会の説明板を見付けた。

正直なところ、いにしえへの面影を推しはかるのに手がかりらしいものは、何一つ無くがっかり。次に探し出した出したのは「三宅出羽守國村公碑」が、阪急沿線傍に在った。高さ一米強の花崗岩？が

台石の上に乗り、裏の碑文は漢文体、浅学の私には十分理解できなかったが、三宅氏が此の辺りの領主だったのだと、おぼろげながら分ったし、天文十八年三月の文字が僅かに昔と今を繋げるしるしのような気がした。

探し歩いていくうち、ふとふみ入ってしまった『万福寺』で、三宅魔寺の塔心礎に見とれていたら、品のよい美しい老婦人の微笑にひかれ、あつかましくも声をかけた。

本寺の裏方（夫人）さんで四十年以上前から嫁として住

居され、先代姑女さんよりのききとり話しのいくつかを静かに語り教えて下さった。足利時代の世、疫病の大流行で多くの男女が亡くなったとき、菩提を弔む寺が見当らず人々の協力があつて、この寺が建立された言い伝へがあると。

世の移りは目まぐるしく、すっかり景色が変わってしまったと遠くを懐かしむように話される声に、しばらく耳を傾け続けた。

次は、撰津市が建てた三宅城跡の石碑、常楽寺跡などをゆつくり探してみたいと思う。

撰津市の石碑・顕彰札

市内の各所には、撰津市の文化財を紹介した石碑や顕彰札があります。名称や所在は、下記一覧表をご参考下さい。散歩がてらでも、見かける事がありましたら、足をとめてみて下さい。撰津市の歴史に触れる場となっています。詳しい場所等のお問い合わせは生涯学習課まで。

撰津市石碑・顕彰札一覧

石碑	名称	所在
三宅城跡	流れの馬場跡	千里丘東一丁目
弥栄の樟	井関敬順師顕功碑	千里丘東三丁目
木下勘兵衛	千本づきの歌	千里丘東五丁目
鳥養牧跡	黒丸城跡	東正雀
開み堤（鳥飼上）	離宮「鳥養院」跡	三島二丁目
市場池跡		鳥飼下三丁目
		鳥飼中三丁目
		鳥飼上一丁目
		鳥飼上五丁目
		千里丘六丁目

顕彰札	名称	所在
蜂塚	不動明王立像	千里丘三丁目
条里制	子安地藏	千里丘東四丁目
味舌天満宮	伏越樋門跡	庄屋一丁目
神崎川分岐点跡	宮の下渡船場跡	三島三丁目
恵照院殿釈尊大	童女の墓碑	東別府五丁目
三ツ樋	三本松天神社跡	東別府二丁目
鳥養の渡し跡		津屋二丁目
		鳥飼野々三丁目
		鳥飼西一丁目
		鳥飼下三丁目

郷土史コーナー

鳥飼の歴史

離宮「鳥養院」

平安京の世に貨客の幹線となつた淀川の流れは、とくに天王寺・住吉・高野山・熊野への参詣や、西海・南海・山陽の任地に下る地方官の多く利用するところになつていました。上皇・天皇をはじめとして数多くの官人たちの往還は文芸にのこされていて、当時の淀川筋の光景をほうふつさせてくれます。

淀川の兩岸のあちらこちらには、皇族の離宮や貴族達の別荘がありました。水無瀬・山崎・枚方・などに多くあつたといわれています。

摂津市では、鳥飼上にあつた宇多天皇の離宮「鳥養院」がありました。

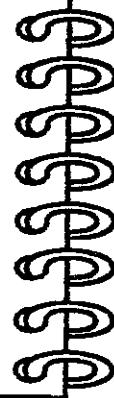
鳥飼上に「御所垣内」という旧小字名が残っていることから、鳥養院はこのあたりに

あつたのだらうと考えられています。この鳥養院は有名で、いくつかの文芸作品にも登場します。中でも、「大和物語」第百四十六段がよく知られています。

※『亭子の帝（宇多天皇）が鳥養院においてになつた。いつものように音楽の遊びがあり「このあたりの遊女たちでここにたくさん参つて控えておりますなかに、声が美しくおくゆかしい感じのする者はおりますか」とおたずねになつたところ、遊女たちは、「大江玉淵の娘という者が、めずらしく参つております」と申し上げた。帝は、御覧になると、姿や顔かたちもこぎれいな感じだったので、しみじみとしたお気持ちになつて、「玉淵は何事にもたいそう心得があつて、歌などきわめて上手に詠んだ。この鳥養という題で上手に詠んだならば、

それによつて本当に玉淵の娘と認めよう」と仰せになつた女は

「あさみどりかひある春にあひぬればかすみならねどたちのほりけり」と詠む。



歌の解釈

『浅緑色にかすむ、生きがいのある春にめぐりあいましたので、霞ならぬわたくしですが、春がすみ

が立ちのぼるようにこの御殿にのぼることができたのでございます』
一句と二句にかけて「とりかい」を詠み込む「隠題歌」「霞ならねど」に「数ならねど（取るに足りない卑しい身であるが）」を掛ける。

帝は、深く感心なさつて、しみじみと涙をお流しなさる。女は御桂一かさねと、袴を賜つた。「同席していたすべての上達部、皇子たち、四位五位の者で、この女に衣服を脱

いで与えない者は、席を立ち去つてしまえ」とおっしゃたので、かたはしから順々に、位の上の人でも下の人もみな衣服を与えたので、女はそれらを肩にかけきれず、二間ほどに積んでおいた。帝はお帰りになる時、南院の七郎君という人に、この遊女の世話をするようにお命じになり、この七郎君は常に訪れては、面倒をみたということだった。

※須藤浩子氏「鳥養院」講演の資料より



離宮「鳥養院」跡石碑・鳥飼上5丁目所在

担当 (茗荷)

考
古
雑
話

第 2 3 回

振津市と水田の考古学

振津市と水田の立地 (4)

前号では、地下水位が高く年間を通じて、地表面まで地下水に浸水されている状態（還元状態）となつている地下水型土壌について記述しました。今号ではまた堆積が異なる表面水型土壌について見てみましょう。

② 表面水型土壌

地下水型土壌と異なり、地下水位の低い地域では、表面水型土壌が展開します。春の苗代の時期に湛水し、秋には落水することにより、湿潤と乾燥がくり返すことで、還元と酸化の反復という理化学的な変化をうけた土壌です。

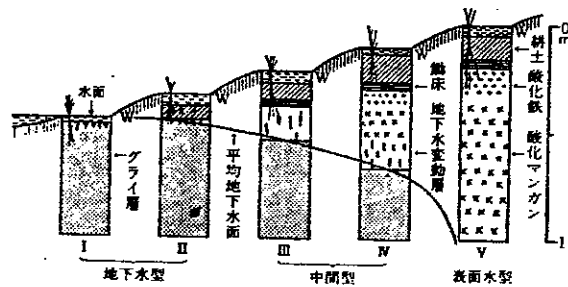
表面水型土壌には、作土中に含まれる鉄分やマンガンが溶けだし下層へ移動し、集積

します。これらの鉄サビ色の酸化鉄の集積層（班鉄層）やさらに下層で酸化するマンガン化合物集積層（酸化マンガン班文）が検出されました。その地で水田経営が行なわれた可能性が想定されます。

通常の試掘調査や立会ではなかなか水田経営を直接に示す遺構（水路、水門、井堰な

《検出例》

千里丘東一丁目における試掘調査で旧の耕作土層が二層確認されました。これらの堆積はオリーブ色の砂質土をベースとして下層には班鉄層↓酸化マンガン班文が見られ表面水型土壌の状況を呈します。いずれの堆積からも土器など遺物は出土しませんでした。が、既往の調査から近世の陶



地下水位の高低と水田土壌形態模式図

水田の考古学・東京大学出版会より

ど）は検出されず、このような堆積から水田面が確認できる場合が多々あります。



磁器を含む堆積と類似しています。この地域に展開していた条里制にともなう水田跡の可能性があります。

【ぬ】布目瓦（ぬのめかわら）
○平瓦・丸瓦に布目を印したものです。製作調整の際、つくものですが、布目の形式は製作された時代の判定材料にもなります。また布の材質の研究の資料ともなります。○飛鳥時代から発達していますが、とくに奈良・平安時代のものに多く見られます。○吹田市の岸部北に所在する七尾瓦窯跡からは、七二六年聖武天皇が再建に着手した後期難波宮で使用された瓦を焼いていたことが知られています。これらの瓦の凹面に布目が残るものが見られます。



七尾瓦窯跡出土軒平瓦

一都市計画道路千里丘登津線
工事に伴う発掘調査報告書2一

担当 (伊部)